

The diagram illustrates the flow of inventory. It starts with '月初在庫' (Beginning Inventory) at 23,590,449. This is added to '仕入' (Purchases) of 39,498,049. The total is then reduced by '原価差異' (Cost Difference) of 41,814 to arrive at the '月末在庫' (Ending Inventory) of 27,886,103. A large arrow labeled '戻る' (Return) points from the ending inventory back to the beginning inventory, indicating a cycle. The '原価差異' box is highlighted with a red dashed border.

月初在庫	23,590,449
仕入	39,498,049
原価差異	41,814
月末在庫	27,886,103

材料費計算の中で、当月の材料に関する標準原価と実際原価の差異を把握し、その原因を分析します。この材料BOXに集計される「原価差異」は材料の「(購入)単価差異」で、当月仕入した分に関して、材料コードごとの標準単価と実際仕入単価の差の積み上げとなります。

①「材料」の「原価差異」を押し一覧表示します。

- ①「材料」の「原価差異」を押し一覧表示します。
- ②「原価集計パネル」を使って、確認したい細かさ、並び順、範囲を変更します。

まずは材料単価差異の金額の大きい材料品番順(標準単価より高く購入した)あるいは小さい順(標準単価より安く購入した)にソート(並べ替え)を行ってみます。

「材料単価差異」がプラス表示(不利差異)になっている材料品番は、予定より原価を圧迫しているという意味です。なぜそのような購入単価になってしまったのかの分析が重要です。発注ロットや、特急手配による材料単価の上昇等、個別に原因を掴むことで、具体的な対策を立てます。

また、標準単価が0円になっているため全額不利差異になっている材料品番がないことをチェックします。これは明らかに品番マスターの単価設定漏れだからです。

また期間設定を「半期」、「年度」等一定期間にしてこの「材料単価差異」の推移を確認してみると、標準単価設定に無理がないか？を確認することもできます。

※ここでも、発見・防止方法は、正確に実地棚卸を行うことも勿論ですが、このように「金額」の大きい順位に並べて、その損益への影響額が大きいものからチェックしていくようにするとより効果的です。

